

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、第一次大戦期以降の 1910 年代末から 30 年代にかけての、いわゆる両大戦間期における交通・運輸の諸問題、とりわけ小運送問題を実証的に解明することを課題としている。両大戦間期は、重化学工業化と都市化が同時に進行した時期としてとらえられる。交通・運輸の問題は、重化学工業化や都市化の進展と密接な関係を持っているが、研究史の現状は極めて貧困であるといわざるを得ない。すなわち、1970 年代以降、両大戦間期における産業史研究は、鉄鋼業・電力業・化学工業・機械工業など、当該期に急成長を遂げた産業を中心に実証的な研究が進んできたが、交通・運輸業、とりわけ小運送業に関する研究はほとんど見られない。

小運送業とは、鉄道各駅や港湾から需要地まで商品を輸送する運輸業のことで、鉄道輸送や海運を「大運送」とよび、このような末端を支える運送を「小運送」と呼んだのである。具体的には、馬車や大八車、舁などを輸送手段とする運送業者のことであるが、この時代には貨物自動車も使用されるようになった。

両大戦間期には、鉄道や海運などは一定の発展を示したが、東京や大阪などの大都市ではこの小運送が未整備で、輸送のネックとなっていた。鉄道や海運で東京や大阪まで輸送してきても、そこから先の小運送が未整備であったため、輸送時間が延び輸送費が高騰するという問題が起こったのである。鉄道省は、小運送業者の合同を推進するとともに、輸送設備の改善を進め小運送問題の解決をはかろうとしたが、その実態は必ずしも明らかにされていない。本研究は、第一次大戦と関東大震災を経て東京で需要が著しく伸びた木材(建築材)を事例に、こうした小運送問題の実態を実証的に明らかにしようとするものである。

本研究では、以上のような課題を達成するため、まず資料の収集に努めた。木材は、このころ米国から米材がかなり輸入されるようになるので、米材の輸入と流通についても目を配らなければならない。そこで、8 月下旬から 9 月上旬にかけて、アメリカのワシントン D.C. にあるナショナル・アーカイブスを訪問し、三井物産や三菱商事の米材輸入にかかわる資料を収集した。また、古書店で輸入木材の流通や消費の状況を示す農林省の報告書や統計書を購入した。

国内では、秋田木材株式会社の経営資料を収集した。秋田県立文書館には 7 月と 12 月に訪問し、行政文書や新聞・雑誌を閲覧し、秋田木材関係の資料ばかりでなく、広く木材一般に関する資料を収集した。とりわけ『秋田魁新報』では、興味深い記事をいくつか見ることができた。さらに、運送関係の資料を通運博物館や流通経済大学で収集した。

こうして、2006 年度には木材の流通・輸送関係に関する資料や統計をかなり広範に収集することができた。これが何よりの成果である。引き続き、天龍木材などの資料を収集しながら、両大戦間期における木材(建築材)の流通・運送の実態を明らかにしながら、当該期の小運送問題を検討することにしたい。

なお、2006 年度の本研究においては、資料の収集に研究の重点を置いたため、成果としての研究発表や論文はないが、近いうちに論文をまとめることにしたい。

研究成果の概要 (つづき)

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)